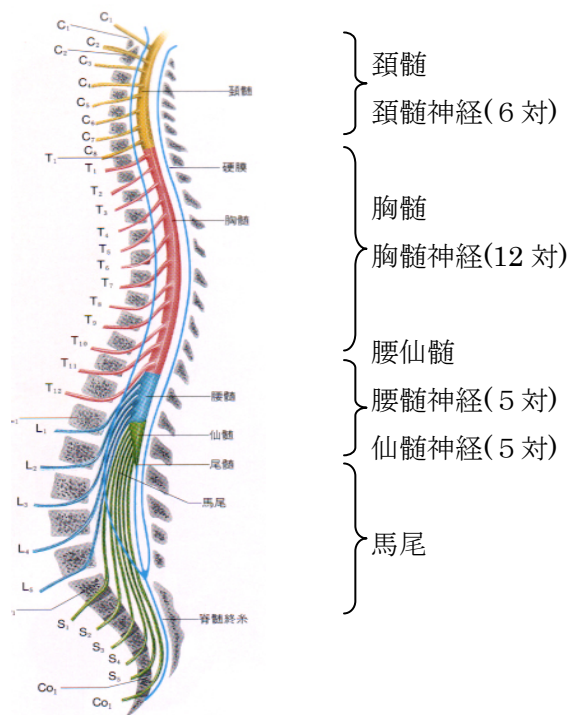


脊髄と脊髄神経

今、お話した脊椎、骨の中に神経が通っています。これを脊髄といいます。先ほど言った、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨に対応して、頸髄、胸髄、腰髄あるいは仙髄と言っています。先ほど頸椎が7つと言いましたが、頸髄だけは8対あります。1つ多いんですね。それは頭の骨（頭蓋骨）と、1番目の頸椎間から出る神経を第1頸髄と呼んでいて、それから順番に数えて7番目の骨と、胸椎の1番目、要するに7番目と8番目の間を第8頸髄と呼んでいます。

胸髄神経は12対、腰髄神経は5対、仙髄神経は5対ですね。一番下の部分は、神経の束がまとまって馬の尻尾のようにになっていることで、馬尾（バビ）と呼んでいます。



脊髄と脊髄神経という言葉も分けて使っています。脊髄というのは真ん中に通っている太い神経ことですね。親指くらいの太さです。脊髄は脳の延長で中枢神経に属しています。障害を起こすと回復しにくい。脊髄には運動神経であるとか、感覚神経が通っておりますので、脊髄がダメージを受けると、ダメージを受けた個所より下の麻痺が起こったり、感覚障害が起こったりすることになります。脊髄から脊髄神経が30対左右に出ているわけですね。手にいたり、足にいたり、あるいは内臓にいたりということになって、そのいった先の筋肉が動かなくなったり、あるいは感覚が落ちたりということになります。